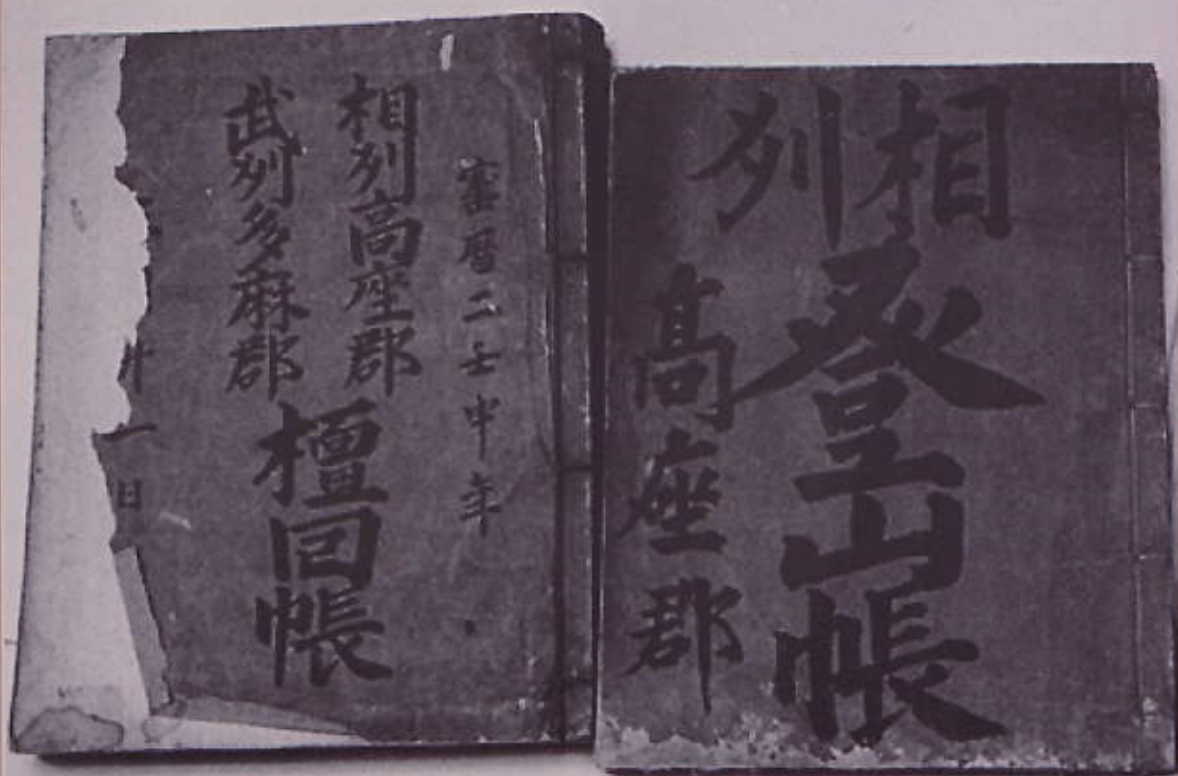


寒川文書館だより

Vol. 2



■第2号目次

資料紹介	2
文書館運営審議会が発足	3
寒川の先人たち	3
文書館 最近のできごと	4
第2回企画展「寒川の学校130年のあゆみ」	6
寒川高校インターンシップ奮闘記	7
最近のレファレンスから	7

第2号
2007.9.30
寒川文書館

資料紹介

今回は、高野山高室院文書についてご紹介します。
高室院は、和歌山県伊都郡高野町にある真言宗の寺院で、高野山の^{たつちゅう}塔頭のひとつです。鎌倉時代、房海僧正によって創建されました。



高 室 院

高室院はとりわけ関東の寺院や信者との縁が深く、
天正18年(1590)小田原城落城後に北条氏直が身を寄せて以来、北条家の菩提所となっています。その縁で北条氏が支配した相模国など数ヶ国を檀那場、つまり札やお守りを配布する地域としており、これらの地域から訪れる参詣者もまた高室院に宿泊するならいでした。

そのため高室院には、中世後期から近代にかけて、寒川町域を含む相模国の人々の高野山信仰の実態や末寺との関係、大名と高野山との結びつきなどを知りうる貴重な史料が非常に数多く残されています。

表紙に挙げた写真は、高室院に残された^{だんかいちゅう}檀回帳と登山帳です。

檀回帳は「廻檀帳」、「檀家帳」、「檀那帳」ともいい、高室院の僧侶が檀那場を回る際に持参したもので、檀家の名前が回る道筋に沿って書き上げられ、寒川町域を訪れた際の記録も含まれています。

一方、登山帳は檀家が高室院に参詣した時の宿泊台

帳で、参詣者の名前、住所、供養の目的やその費用などが記されています。

高室院にはほかに、^{げっばいちゅう}月牌帳といって、高室院に参詣し供養料を奉納した人々の国郡村名、名前、菩提供養者の戒名、没年月日などが記された史料があります。この史料中では、ほとんどの人に苗字が記されていることから、中世後期にはすでに庶民が苗字を持ち、信仰という私的な場面で使用していたことがわかります。庶民信仰の実態を知る史料として大変貴重ですし、先祖の名前や動向を調べるのに有効な史料といえます。寒川に住む人々の名前が記されたものもあります。また、郡や郷・庄といった中世的な地名が、江戸時代初期になっても引き続き使われていたことも判明します。



高室院での資料調査風景

『寒川町史』編さんにあたっては、これらの檀回帳・登山帳をはじめ高室院が所蔵する史料を整理し、目録(『寒川町史資料所在目録』第16集)を作成しました。そのうち写真撮影をしたものについては、寒川文書館で写真版を閲覧することができます。また『寒川町史研究』第4号、『寒川町史調査報告書』1・2・6にも調査の成果が掲載されていますので、どうぞあわせてご覧ください。



文書館運営審議会が発足



平成19年6月29日、寒川文書館運営審議会委員の委嘱状交付式ならびに第1回会議が開かれました。

この審議会は、町民や専門家の意見を反映し、より良い文書館運営を行うため、年間事業計画や資料の保存・活用方針等の審議などを行う機関で、町民の公募による委員2名のほか、町議会議員、学校長、町史編集委員、学識経験者、資料所蔵者各1名の合計7名で構成されます。

今回はまず、町長から各委員に委嘱状が手渡されました。次いで、正副会長の互選に移り、会長に木村勇氏、副会長に小川千代子氏が選出。会議では、平成18年度事業結果の報告と19年度事業計画の審議が行われ、活発な質疑を経て、いずれも了承されました。



町長より委嘱状が手渡される

寒川文書館運営審議会委員名簿

選出区分	氏名	備考
町議会の議員	細川 京三	
町立小中学校長	阪岡 晋吉	旭小学校校長
町史編集委員会委員	木村 勇	会長
学識経験を有する者	小川千代子	副会長、国際資料研究所代表
ボランティアまたは資料所蔵者	野村 尚広	寒川神社権祢宣
公募による町民	石黒 俊子	
	中門 吉松	

敬称略、任期：平成19年6月29日～平成21年6月28日

シリーズ 寒川の先人たち

第1回：村から町へ — 広田孝基 —

寒川町の初代町長です。明治24年(1891)、寒川村会議員だった広田久作の長男として誕生。駿河銀行に就職し、昭和2年(1927)に国府津支店長になったのち、昭和4年に寒川村会議員に初当選。翌5年には村長真田喜三郎の辞職にともない15代目の村長に就任しました。

3期目在任中の昭和15年には町制を施行し、初代の寒川町長に就任、17年6月まで務めました。在任中は、昭和産業、日本内燃機といった大企業の誘致に尽力するなど、寒川の工業化にも大きく寄与しました。

のち病を得て療養生活を送るなか、文芸活動にいそしみ、昭和29年、処女歌集として『朝霞』を上梓しました。



広田孝基(1891～1959)

文書館 最近のできごと

■第4回町史講座「江戸時代の道」 3月3日(土)



厚木市史編集委員の飯田孝さんに「江戸時代の道 田村通り
大山道を中心に」と題してお話しいただきました。

古文書、浮世絵、文学作品など、スライドも交えてさまざまな資料を紹介しながらの説明に、40名あまりの参加者は熱心に聞き入っていました。終了後も活発な質疑が行われ、皆さんの関心の高さがうかがわれました。

詳しい内容は『寒川町史研究』第21号(平成20年3月刊行予定)に掲載する予定です。

■刊行物販売開始 4月17日(火)



『寒川文書館開館記念誌』(左)、『寒川町史研究』第20号(右)の2冊を発行、販売を開始しました。

ともに文書館を特集していますが、『開館記念誌』は関係者のメッセージや文書館の設立経過や施設、計画・例規など、これ1冊で寒川文書館の全てがわかるようになっています。また、『町史研究』は開館記念講演やレファレンス記録などのほか、町史研究1～20号の総目次などを載せています。

各500円。文書館カウンターでお求めいただけます。

■資料の燻蒸(くんじょう) 5月14日(月)～18日(金)



総合図書館・文書館の特別休館日を利用して、資料の燻蒸を実施しました。

これは、虫やカビから資料を守るために行うもので、ビニール天幕の中に資料を入れ、そこに専用のガスを注入して4昼夜置くことでガスを行きわたらせ、虫やカビを死滅させる作業です。今回は約330箱の資料を対象としました。

またこの期間には図書館と共同で図書資料の蔵書点検も行いました。

■出前講座「寒川の食材に学ぶ」 5月18日(金)



健康管理センター2階会議室で開催された、健康課の事業「食生活改善推進講座」に講師として招かれました。

「寒川の食材に学ぶー特色ある農業の歴史ー」と題し、大正時代以来、地域の特色を活かして園芸作物や畜産業を手がけた寒川の先人たちの功績について、写真や資料を紹介しながら説明するもので、特にいちご栽培と養豚を中心に詳しくお話ししました。

■古文書講座 6月23日(土)～ 全5回



6月から毎月第4土曜日に「古文書講座－江戸時代の史料を読む－」を開催しています。

これは、地域に残された、くずし字で書かれた古文書を素材に、江戸時代の村のようすや、人々の暮らしについて学ぼうというもので、約20名が参加しています。

今回は田端村の年貢割付状、朝鮮通信使が東海道を通るときの負担などといった史料を読んでいます。

■出前講座「寒川の1万年」 7月14日(土)



今日のレジュメより

岡田の越の山自治会に招かれ、「寒川の1万年」と題する講演を行いました。当日は、台風が接近する大雨の中にもかかわらず、18名の参加がありました。

旧石器時代から現代まで、寒川の通史を話してほしいというご要望でしたが、なるべく岡田の話題に引きつけてお話しするよう心がけました。参加者の皆さんは、とりわけ、越の山横穴墓から出土した人骨のこと、田沼意次が岡田村の領主だったことなどに、強い関心を抱かれたようでした。

■国立公文書館『アーカイブズ』に掲載 7月31日(火)



国立公文書館が発行する機関誌『アーカイブズ』第29号に「寒川文書館の開館」という記事が載りました。この雑誌は、同館をはじめ、世界の公文書館の最新情報を載せるもので、地方の動向を伝えるコーナーに、寒川文書館を紹介する機会を与えていただきました。記事には、文書館設立までの経過、事業の展開、運営上の課題や目標などが、4ページにわたって紹介されています。

■ボランティア説明会 8月4日(土)



9月からの企画展の準備や、写真の整理作業をボランティアの皆さんに手伝っていただくため、説明会を開催しました。

ボランティアの館運営への参加は、当館の目標の一つ「みんなが足を運びたくなる文書館」の大きな柱と位置づけています。

説明会には年配者から中学生まで8名が参加。展示で使う風景写真の撮影や、パネル作成などの手順について説明しました。他にも説明会には欠席だが仕事は手伝いたいという方も7名いて、皆さんの関心の高さがうかがえます。

第2回企画展「寒川の学校 130年のあゆみ —学校教育資料の紹介をとおして—」

学校は、子どもから大人まで誰にとっても、様々な思い出のある馴染み深い場所です。

第2回展示では、「学校に関する記録資料にはどのようなものがあるのか？」という視点から、各家庭で大切に保存されてきた昔の写真や教科書、学校が配布した印刷物などを展示し、寒川町内の小・中学校の移り変わりを紹介しました。

1 はじめに

寒川町内の学校はいつごろできたのでしょうか？どんな経緯をたどって今に至っているのでしょうか？ここではとくに町立小学校5校の変遷や児童数の推移を、図とグラフで説明しました。



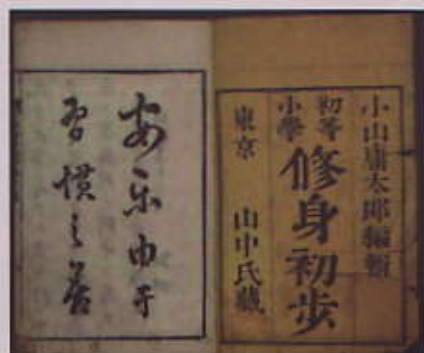
運動会（昭和2年）



運動会（昭和44年）

2 写真に見る学校のすがた

入学式・卒業式・運動会・学芸会など、学校生活の節目ごとに撮影された、かつての情景を振り返ることができる写真を展示しました。



『初等小学修身初歩』（明治14年）

3 さまざまな時代の教科書

昔はどのような教科書を使っていたのでしょうか？時代によってどのような特色がみられるのでしょうか？明治期～昭和40年代の教科書を、パネルで展示・解説しました。



修学旅行案内（昭和39年）

4 学校の記録を読む

賞状・プリント・学校新聞など学校が発行した様々な記録資料を、時代を追って紹介しました。皆さんのご家庭にも同じようなものが残っていませんか？



寒川小学校校歌原稿（真田喜七直筆、昭和28年）

展示ケース

かつて寒川町長をつとめた真田喜七（喜一）が作詞した寒川小学校・寒川中学校校歌原稿や楽譜のほか、明治5年の教科書などの実物資料を展示しました。

【展示期間】平成19年3月17日（土）～8月31日（金）

寒川高校インターンシップ奮闘記

7月27日(金)・28日(土)の両日、神奈川県立寒川高等学校の生徒4名が文書館の仕事を体験しました。

これは同校が実施しているインターンシップの一環で、1・2年生がさまざまな職場に出向き、仕事を体験することで、勤労観・職業観を学び、コミュニケーション能力や協調性などを磨くというものです。

当日はスタッフの指導のもと、蔵書点検、古文書講座の準備、写真資料の移設・整理などの作業に一所懸命取り組んでくれました。

作業終了後、感想を書いていただきました。要約して紹介します。

○古いものを見たりさわったりすることができ、文書が今の時代にとっても大切なものだと思えました。

○自分たちの身近に、たくさんの古文書や資料があることを知り驚きました。これからもこれらを大切に守っていく必要があると思いました。

○大変で地味な作業だったけれど、この作業が過去のことを未来に伝えていくことにつながるのだなと思いました。

○文書館の仕事がよくわかりました。特に、古文書の講座がとても興味深かったです。



古文書保存箱の組み立て作業



蔵書点検

最近のレファレンスから

Q 一之宮4丁目にある不動堂の役員をしています。維持経費の寄付を近所の皆さんにお願いする文書を作るにあたり、どのような由緒のお堂なのかも盛り込んで広く知ってもらおうと考えています。そこで、このお堂について詳しく教えて下さい。

A 不動堂は、田村通り大山道(大山街道)に面しています。この街道は、江戸から鎌倉・江の島を通して大山に向かう、江戸時代では著名な観光ルートで、相模川を越える「田村の渡し」の渡船場がこのお堂のすぐ西側にありました。『新編相模国風土記稿』によれば、もともとは相模川の対岸の田村(平塚市)にあったものが移転してきたという伝承があります。

本尊は、不動明王坐像と2体の眷属(お供の仏像)からなる不動三尊像です。不動明王坐像は江戸時代初期の作とみられ、宝暦3年(1753)に修理されています。

その修理を施したのは、江戸芝口(東京都港区)の初音屋平吉という人物でした。また、お堂の外側には力石や道標がありますが、これらを奉納したのも江戸の人たちでした。このように不動堂は江戸とのつながりが深く、大山参詣の栄えたようすを物語る、貴重な史跡といえましょう。



今後の事業予定

■開催中の展示のお知らせ

第3回企画展示

「昭和40年のまち探検

ー地図と写真でたどる寒川のすがたー」

寒川町の景観は戦後の都市化によって急激に変化しましたが、その画期となったのは昭和40年前後の時期でした。

当時の町の姿を伝える資料である「寒川町家屋名入地図」を中心に、町民の方々や町の職員が撮影した当時の風景写真、町民の方が収集された当時のマッチの箱絵などを展示し、昭和40年ごろの寒川町の姿にせまります。ぜひ足をお運びください。

会期：平成19年9月2日(日)～20年2月29日(金)

■中世史講座のお知らせ

「梶原景時の史料を読む ー吾妻鏡の世界ー」

寒川にゆかりの深い鎌倉武士、梶原景時の活動を、鎌倉幕府の公的記録である『吾妻鏡』の記事でたどります。

日 時：平成19年11月24日(土)、12月22日(土)、
20年1月26日(土)、2月23日(土)、

いずれも午前10時～12時

会 場：寒川総合図書館 3階会議室

定 員：20名

お申込み：11月9日(金)から11月22日(木)の間に
文書館へ直接、または電話、FAXで

編集後記

寒川文書館だより第2号をお届けします。日頃の文書館の活動や、所蔵資料など、さまざまな側面をご紹介しますのではないかと思います。

本年10月末からは、開館1周年記念事業を、総合図書館と共催で行います。講演会、特別展示、映画会など、さまざまな企画をご用意し、皆さまのご来館をお待ちしています。こうした事業を行うことで、一人でも多くの方に資料への関心を深めていただければと考えています。詳しくはホームページや広報などでご紹介しますので、いましばらくお待ちください。

ホームページもごらんください

ホームページでは文書館からのお知らせ、出版物のご案内のほか、さまざまなコンテンツをご提供しています。ぜひいちどアクセスしてみてください。

ホームページアドレスは下記のとおりです。

<http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

利 用 案 内

■開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分

寒川町コミュニティバス 図書館文書館前下車 徒歩1分

※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第2号

平成19年9月30日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

電子メール bunsyokan@town.samukawa.kanagawa.jp